

「子供への学習支援によるコミュニティ復興支援事業」の取組事例

「放課後子ども教室」(宮城県気仙沼市)

取組の概要や経緯

保護者、地域住民等で組織された「月立小学校スクールサポータースタッフこだま隊」の参画を得て、令和2年度より気仙沼市立月立小学校で実施している。被災による影響が大きい本市において、**放課後における子供たちの安心・安全な居場所を提供し**、学習支援や体験活動支援を行うことで、**学びを通じた地域コミュニティづくり、子供を真ん中に置いた地域全体での子育て体制づくり**につなげている。また、**中高生が運営に携わる機会を創出**することで、**地域の人材育成**につなげている。

内容

- ・放課後における児童への学習活動支援（宿題や自主学習の補助）、交流活動支援（折り紙、工作活動等）、スポーツ活動支援（ドッジボール等）を週2回の頻度で実施した。
- ・講師を招いてのバルーンアート講座（3回）、ブドウ園見学（1回）を開催した。
- ・公民館を会場に交流会（2回）を開催し、運営スタッフとともに中高生が運営に参画した。2回目の交流会では、**防災クイズや現役消防士の指導による簡易担架作成・運搬体験等**を実施した。
- ・リアス・アーク美術館を会場に、「東日本大震災の記録と津波の災害史」の展示見学（防災学習）を行った。館長から震災被災物に関する資料について説明を受け、**参加児童は、震災について語り継ぐことの大切さについて深く感じ取った様子**が見られた。

ポイント

- ・児童、保護者、地域住民（中高生を含む）の参加型による持続可能な取組の推進
- ・児童・保護者と運営スタッフとの良好な関係づくり・子供の居場所づくりの推進
- ・地域の文化施設を有効利用した**震災の教訓を風化させないための防災学習の推進**
- ・運営スタッフ補助として、**地域の中高生の運営参加の機会創出と人材育成**

成果

- ・運営スタッフの見守りの中、学習活動やスポーツ活動など、参加児童が自由に過ごせる時間を多く設定しており、参加児童の安心・安全な居場所づくりにつながっている。
- ・震災に関する防災学習は、消防士や美術館長と関われる機会を設定したことで、児童にとってより深い学びにつながった。
- ・中高生を含む地域住民の参画を得て、学習・体験活動支援を行うことで、地域コミュニティの充実と活性化につながっている。

実施回数	63回
延べ利用人数	748人
将来、震災伝承に関わる活動をしたいと考える児童の割合	40%
地域の活性化につながっていると考えるスタッフ・保護者の割合	100%



今後の方向性

- ・中高生を含んだ地域住民の参画を得ながら、子供たちの放課後の安心・安全な居場所を確保する。
- ・学習・体験活動支援の更なる充実を図ることで、子供たちの豊かな人間性を育み、更には地域コミュニティの活性化を目指す。
- ・参加児童が学習活動、スポーツ活動、交流活動、防災学習等を安心・安全に行える環境を整備するため、より多くの学習支援者の確保・育成に努める。
- ・震災を風化させないために、教訓を生かした教育・体験活動ができる体制を構築し、実践力を伴った人材を育成する必要がある。（児童並びに中・高校生の育成）

「子供への学習支援によるコミュニティ復興支援事業」の取組事例

「学校・家庭・地域の連携による教育力の向上」(宮城県多賀城市)

取組の概要や経緯

【放課後子ども教室】

平成20年度より事業を開始し、震災の影響で平成23年度に一時休止したが、平成23年7月より事業を再開した。放課後等に子どもたちの安全・安心な活動拠点(居場所)を設け、地域住民の方々の参画を得て、子どもたちが地域の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進することを目的としている。

内容

- ・活動日時…授業終了後から午後4時30分まで
- ・活動内容…学習(宿題等)、防災学習、季節に応じたものづくり、外遊び等
- ・イベント…プラバンづくり・ニュースポーツ体験・昔遊び体験等

ポイント

- ・コーディネーター中心に創意工夫し、多様な体験活動、交流活動を実施している。
- ・地域の団体(公民館、市スポーツクラブ等)、大学生の協力を得ながら防災学習を実施している。
- ・大学と連携し、学生ボランティアの参加を促している。また、中学生にもボランティアの協力を得られた。
- ・わくわく通信を年に2回発行し、教職員や保護者に活動の様子を周知している。

成果

年間208日間の活動を実施し、安全・安心な居場所と地域住民等との交流の場を提供し、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進できた。

特に防災学習では、小学校6校合同で参加者をグループに分けて、5ブース(公衆電話使用体験、段ボールベッド組立て体験、土のうづくり体験、防災倉庫見学、備蓄品試食体験)を順番に回り、最後に学習の成果を活かして行う防災脱出ゲームを実施し、震災伝承と防災関心向上を図ることができた。

今後の方向性

- ・地域のボランティアスタッフの技術向上のための研修や情報提供を行い、児童に多様な学びや体験活動を提供し、心豊かで健やかな児童を育成する。
- ・中・高・大学生や地域住民とのネットワーク(地域学校協働本部との連携)を広げ、協力体制を整えていくことで、交流活動の充実を図り、地域の活性化につなげる。



防災学習(公衆電話使用体験)



防災学習(土のうづくり体験)



防災学習(段ボールベッド組立て体験)



防災学習(公衆電話使用体験)

	R5	R6
活動日数	216	208
児童参加数	5,301	5,577
ボランティア参加数	1,647	1,834



防災学習(防災脱出ゲーム)



コマ大戦(公民館と連携)



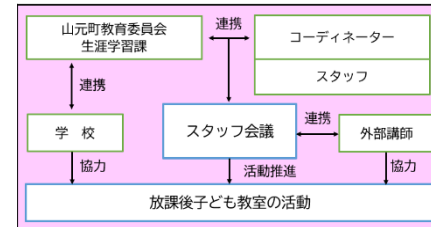
中学生との交流活動

「子供への学習支援によるコミュニティ復興支援事業」の取組事例

「山元町放課後子ども教室推進事業」(宮城県山元町)

取組の概要や経緯

余裕教室や周辺施設を活用しながら、放課後の子供たちの活動を地域住民が見守り、**地域住民と一体となったコミュニティの確立**と**異年齢の交流**を推進する。また、子供たちが地域の大人と様々な体験をしながら、**心豊かでたくましい人間形成**を図ることにより、**地域の担い手づくり**につなげていく。



はまっこキッズ リンゴ狩り体験

内容

- **はまっこキッズ**(主な活動場所: 山元町立坂元小学校)
 - ・ 毎週金曜日の14:30~16:00に、坂元小学校児童を対象として活動を進める。
- **みやまっこクラブ**(主な活動場所: 山元町立山下第一小学校)
 - ・ 毎週月曜日の14:45~16:00に、山下小学校・山下第一小学校・山下第二小学校児童を対象として活動を進める。
- ◎ 主な活動内容として、スタッフ間での創意工夫を生かした活動のほか、地域住民を講師に迎え、ニュースポーツ、生け花体験、防犯カルタ、民話、りんご狩り体験などを実施している。
また、震災遺構中浜小学校見学や、ジュニア・リーダーとともに防災について考える活動などを取り入れ、児童の防災意識を高めるとともに、中・高生の地域の担い手になろうという意識の高まりや育成についても意図しながら活動を行う。



みやまっこクラブ 震災遺構中浜小学校見学

ポイント

- ① コーディネーター、スタッフが**創意工夫**をしながらバリエーションに富んだ活動を企画している。
- ② 地域の産業、伝統芸能、サークル活動などの**地域素材にふれ、体験する活動を実施**している。
- ③ 子供から大人までの異年齢の関わりにつながる**地域コミュニティづくりの一助**となっている。
- ④ 児童との関わりを通して、**中・高生の担い手を育成**し、地域づくりにつなげている。

成果

- 放課後の児童の安全・安心な居場所づくりとなっており、様々な活動に**意欲的に取り組む様子**が多く見られる。
- 児童の満足感がスタッフに伝わることで、スタッフの**やりがいと次の活動への意欲**の高まりが見られ、住民の生きがいづくり、地域づくりにつながっている。
- 活動を重ねることで、異学年交流・世代間交流が広がりを生み、**地域コミュニティづくり**につながっている。また、ジュニア・リーダーの研修会と組み合わせ、**中高生が小学生に伝承する活動**を設定したことで、参加児童が伝承活動の重要性に気付くとともに、**担い手になろうという意欲**の高まりが見られた。

今後の方向性

- 上学年児童は6時間授業のために参加することが難しく、学校の活動と重なることもあるため、調整しながらより良い在り方を探っていく。
- より多くの児童と地域住民が関わる機会を増やすために、町内全小学校で放課後子ども教室を実施する方法を模索していく。
- ジュニア・リーダーとの関わりを取り入れることにより、多くの児童や中高生が、今後地域の担い手になろうという意欲を高める機会にしていける。
- 地域の特色を活かした体験活動の充実を図る。

「子供への学習支援によるコミュニティ復興支援事業」の取組事例

「令和6年度女川町放課後の子供の居場所づくり事業(放課後楽校、まなびっこ)」(宮城県女川町)

取組の概要や経緯

地域住民や中・高校生を講師やボランティアとして活用し、生涯学習につながる学びや体験を提供するとともに、児童が安全・安心な放課後及び休日の時間を過ごせる居場所づくりを推進することを通して、地域コミュニティの再構築と児童の豊かな人間性・社会性・未来の地域のリーダーとしての資質の素地を養うことを目的に本事業を実施している。

内容

教育局が連絡・企画調整を行い、特色ある講座を提供し、放課後及び休日の活動を充実させている。本事業の特徴は、児童が主体的に宿題や外遊び、体験講座等を選択できること、また、中高生や多くの地域住民がボランティアとして参加していることである。放課後楽校は児童クラブと一体的に平日実施し、まなびっこは休業日に実施している。

講座の一例)

- ◆放課後楽校: JLと遊ぼう、工作教室、獅子振り体験、JLと学ぶ防災教室 等
- ◆まなびっこ: バレエ体験、料理教室、海の活動、寺子屋(書道・珠算等)、凧あげ 等

ポイント

- ①一般社団法人まちとこ「女川向学館」や鳴り砂を守る会、花卉同好会、食生活改善推進委員会等、地域の様々な団体と連携し、体験を通じた学びを提供。
- ②地域人材(中・高校生を含む)を活用し、子供と関わりながら地域活性やコミュニティの再構築を目指すとともに、震災学習や、ジュニア・リーダーの実践の場(集団ゲーム、震災のミニ語り部、防災教室)とする。

成果

町内講師の参画がより安定したものになり、改善に向けた意見が講師側からも出されるようになってきた。児童は、書道や工作など40程の体験から興味・関心に基づいて選択でき、経験や人との出会いを楽しんでいる。中・高校生にとっても、学びを実践する良い機会として定着してきた。

町内講師数及び参加児童数

	まなびっこ	楽校 (通常)	楽校 (特別)
町内講師	34	3	35
参加児童	456	5995	432

まなびっこ
(料理教室)



まなびっこ
(寺子屋珠算)



放課後楽校
(JLの防災教室)



今後の方向性

放課後楽校は、向学館との協働・連携を強め、地域住民や施設などの地域資源を生かした体験活動を推進していきたいと考えている。今年度、保護者ボランティアが実現しなかったのも、次年度以降実現を目指す。

まなびっこは、児童クラブと連携していることから参加者が増加したので、より地域講師講座数を増やし、活動の拡充を図るとともに、中・高校生もボランティアとして関わってほしいようにしたいと考える。